

「天石屋戸」

悪行を繰り返す須佐之男命を怖れ、天照大御神は天石屋の奥深くに籠られました。すると、太陽が沈み暗くなり、悪い神々が騒ぎ始め、禍という禍がおこりました。困った神々は天安河の河原に集って協議し、智者である思金神に相談しました。思金神は、榊の木に八咫鏡と五百個の勾玉を飾りつけた御幣を作らせました。そして、天石屋戸の前で天宇受売命がおもしろく踊りだし、集まった神々は声を合わせて笑いました。賑やかな外の様子が気になり、天照大御神が戸を少し開くと、隠れていた天手力男神がその手を持って引き出し、天石屋戸に注連縄を張りめぐらしました。こうして、天照大御神がふたたび姿を現したので、天上も地上も明るく輝きました。



廣峯神社の本殿裏にある庚申社には、猿田彦命と天鈿女神（天宇受売命）の夫婦神をお祀りしています。

この天鈿女神は、天石屋戸の前で初めて踊りを披露したことから、舞踊、音楽、歌舞伎、狂言、能、映画、演劇、お笑いなど、すべての芸能の守護神と崇敬されており、多くの方から信仰されています。ご神前にて神楽を奉納する巫女の原形とも、また、宮廷祭祀に関わる猿女君の祖神や福の神とも言われています。交通安全の神様である猿田彦命とは天孫降臨の時に出会います。